

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071401097		
法人名	有限会社 中山メディカルサービス		
事業所名	グループホーム おあしす ありた		
所在地	福岡県福岡市早良区有田6丁目2-5 (電話) 092-801-1122		
自己評価作成日	平成 23 年 11 月 20 日	評価結果確定日	平成 24 年 2 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域交流の中でも、教育機関との連携を充実させています。
保育園との交流・小学校の福祉教育の場・中学生や高校生のボランティアなど、ただ与える・貰うだけの立場でなく、一緒になって活動を行っています。
また、消防署発行の救マークや子ども110番など、24時間体制のメリットを生かした地域との関わりも行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 23 年 12 月 12 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

保育園・小中学校が近くにあり、高校のグラウンドは事業所2階・ベランダから見渡すことができる。保育園・小中学校・高校との継続的な交流を中心に地域との交流を行っている。保育園児の歌・踊りの訪問、小学生の福祉体験学習、中高校生の清掃ボランティア、高校体育祭の応援合戦見学等は利用者の大きな楽しみとなっている。市営の団地が近くにあり、団地の夏祭りに参加し、事業所行事の5月のバザーで地域住民との交流を図っている。各ユニット毎の特徴・雰囲気を出し、利用者一人ひとりに寄り添って生活支援を行っている。すべての正職員は消防署の「応急手当普及員」の講習を修了し、24時間誰かが応急手当をできる体制をとっている。「子ども110番」にも登録し、小学生の立ち寄りもある。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念の唱和をし、意識すると共にユニット会議での議論等、理念に基づいた考え方を取り入れて話し合い、統一ケアが出来る様に努めている。	法人基本理念の下、事業所独自の地域密着型の視点を謳った理念がある。朝の申し送り時に唱和し、各ユニット会議で理念の意識化・共有化が図られている。理念の実践においては日頃の利用者への言葉かけ・態度・地域との交流において取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回保育園から施設に来て頂き、歌や踊りを見せて頂いている。又、小・中・高の学習発表会や体育祭等の見学に行かせて頂いたり、福祉体験学習の受け入れを行っている。地域の町内の祭りや、地域行事に積極的に参加させて頂いている。	地域の保育園・小学校・中学校・高校との継続的な交流を行っている。保育園児の歌・踊り、小学生の福祉体験学習、中学生・高校生の清掃ボランティアの訪問がある。小学校の学習発表会、高校体育祭の応援合戦への見学は利用者の楽しみになっている。近くの団地夏祭りにも参加し、事業所主催のバザーには地域住民の参加・協力を得ている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	子供110番として地域に関わり、また、正社員は応急手当普及員の認定を受けており、救命講習終了スタッフ常駐施設の指定も受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で包括支援センターの管理者や民生委員・ご家族の代表の方と話し合った事をユニットの申し送り時やユニット会議等で話し合い、サービス向上に努めている。	運営推進会議は定期的に開催し、利用者・サービス・評価等の状況を報告し、話し合いを行っている。その話し合いの中から、事業所が5月に開催しているバザーの収益金の一部を今年は東日本大震災に寄付する等意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の講習会等には職員が受講し易い態勢を取っている。又、研修生の受け入れを積極的に行っている。研修後はユニット会議で勉強会を開いている。	市へは窓口や電話で報告・連絡・相談し、サービスの質の向上に努めている。利用者の状況に関して保護課との連絡・連携は密に行っている。市からのアンケートへの協力、市主催講習会への参加等積極的に行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上玄関の施錠を行うも、日中・夜間を通して拘束は行っていない。その為に出て来ただけリビングで過ごして頂き、見守りの出来る態勢を取っている。	身体拘束に対する弊害は管理者・職員とも十分理解し、意識化と共有化は図られている。玄関は日中施錠されておらず、ユニット玄関に鈴をつけ外出傾向のある利用者には、見守りと付添いを行っている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて学んだりマニュアルを作成したりしている。又、ユニット会議等で職員への周知徹底に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や講習会に積極的に参加し、必要な人には情報提供を行っている。ユニットには参考資料を置いてあり、職員の周知徹底に努めている。	制度に対しての知識は研修で学ぶ機会があり、伝達研修で職員間での共有化は図られている。利用者・家族には契約時・必要時に説明をしている。参考資料・手引書をユニットに置き、いつでも確認し、説明に使うことができる。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は内容の説明に時間をかけ、理解して頂く様に努めている。疑問に思う点等には質問し易い雰囲気を作り、納得の上で契約させて頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の趣味や生活歴等、コミュニケーションをとる事で不満や苦情を聞き易い環境づくりをしている。又、知り得た情報は職員間で共有し、話し易い雰囲気の中で意見交換している。年2回の家族会や行事への参加を呼びかけ、コミュニケーションを図れる様している。又、意見箱の設置により情報収集に努めている。	利用者の意見・要望には管理者・職員共、日常の中で耳を傾けている。一度、喫煙を止めていた利用者の再度の要望に応じて、ベランダでの喫煙の支援を行なっている。家族会を年2回、食事会として開催し、意見・要望を聴き、日頃の家族の訪問・面会時も職員から利用者の状況等を話し、要望等があれば、職員間で検討して運営に反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何事も管理者一人の決定ではなく、ユニット会議や申し送り時に意見を聞き、運営に反映させている。	ユニット会議、毎日の申し送り時に職員は意見を出す機会がある。管理者は日頃から職員の意見等は聴けるよう、時には管理者から声かけを行い、個別に対応している。職員の意見を運営に取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内には代表者が不在で各管理者との話し合いで年間行事を考える事により、職場環境の改善に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用選考に際しては、性別・年齢・思想・宗教等個人の権利にかかわる事項を判定材料とはしていない。あくまで本人の能力・経験・資格を基に勤務させている。	募集・採用に関して性別・年齢による差別等を行われていない。研修参加も全員が参加できるよう調整し、希望の研修参加も考慮して職員の資質向上を図っている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育は管理者が研修に行き、内容はユニット会議等で職員に説明している。毎朝の理念唱和にて理解を深める様に努めている。	管理者・職員共、研修に参加し、参加できなかった職員に伝達研修も行い、共有化・意識化が図られている。管理者はユニット会議でも人権の重要性を話し合い、その意識の啓発を行っている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市・県の講習情報を提示し、参加し易い様勤務態勢に配慮している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お互いの祭りや納涼祭等に参加する事により、質の向上に努めている。又、研習受け入れや研習に行く事により、他施設の長所を学ばせて頂いている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に顔なじみの関係を作り、傾聴の機会を設けて、不安な事・困っている事等を本人から聞き出せる様にしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずはご家族の話を十分に聞き、気持ちやニーズを受け止める事から始めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族にとって一番いい方法を見出すお手伝いが出来る様に心がけている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の介護度に応じた手伝いができる事を考え、役に立っているという意識を持って頂ける様にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かある毎にご家族に相談し、一緒に解決する様にしている。職員からの提案もあれば、ご家族からの提案や情報提供もある。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時折本人の知人や友人の面会があり、歓迎している。電話や手紙にて連絡を取り持つ事もあり、人間関係の把握はご家族から情報を得たり、訪問にご家族が付き添う等の協力を得る事もある。	知人・友人が訪問面会してくれる利用者もあり、楽しみになっている。元ボクサーの利用者は友人がボクシングの試合に連れて行ってくれることもある。外出時に以前の生活の場所を回って、利用者の「懐かしさ、思い出」支援に繋げたり、以前の馴染みの神社への初詣を計画することもある。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のコミュニケーションを図る事が難しく、職員が橋渡しを行う事により円滑な人間関係を図れる様に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療行為が必要で入院され、退居となった時等は職員が個々に面会に行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いを知る事は大事な事だと全職員が意識して日々接している。必要に応じてユニット会議で議題として取り上げ、集中的に取り組む事もある。	利用者の思いや意向は、利用者との日常の会話やホワイトボードでの筆談等から把握に努めている。意思表示が困難な利用者に対しては、その表情・態度等から推し量り、家族等からの情報をもとに把握に努めている。可能な限り利用者の思い・意向は叶えることを前提とし、本人の立場で検討し、支援に繋げている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご家族から生活歴等の情報を提供して頂き、入居後は出来る限り早く本人からの情報収集に努め、信頼関係を築く様にしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に本人の行動や状態を観察し、職員間で知り得た情報を共有して、穏やかに過ごせる様にしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の行事等を通してご家族の意向を聞く事で介護計画に役立てている。又、モニタリング等で職員は計画作成者に任せるのではなく、全員の意見を取り入れ介護計画を立てる様にしている。	介護計画は3ヶ月、6ヶ月毎に見直しを実施し、入院後やADLに変化があった時は随時の見直しを行っている。担当制をとっており、担当者が家族・職員・医師・看護師等から意見を聞き、計画作成担当者は担当者と共に個別の計画を立てている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活に変化が見られた時等は特に細めに記録し、職員間で話し合い、介護計画に反映させている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスや当ユニットの行事計画に沿ったサービスは勿論であるが、一人ひとりのニーズを引き出す事により、柔軟な支援を心がけています その為に利用者様・ご家族とのコミュニケーションを密にとる様に日頃から心がけている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容や耳鼻科には月1回の訪問をお願いし、又、消防には年2回、訓練に来て頂いている。保育園から高校までの交流やボランティアの受け入れもしている。2か月に1度の運営推進会議にて包括支援センター及び民生委員の方に来て頂き、色々相談させて頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望している医療機関での医療を受けられる様にしている。必要に応じて、本人の状態にあった医療機関の提案も行っている。医療機関を受けた際の情報は即時に本人・ご家族と共有する様努めている。	かかりつけ医への受診は家族の付添いを基本としている。事業所が最近の状態について書面で情報提供をしている。事業所の協力医の往診・受診の結果については、家族に直接、もしくは、電話で報告している。処方薬に対する家族の不満等がある時は、医師との話し合いの機会を設けている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回定期的に看護師が訪問しており、情報提供を密に行っている。又、24時間相談できる様になっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関とご家族と相談のもと、本人にとって一番いい方法と一緒に考える様努めている。又、細めに職員はお見舞いに行き、顔を見せる事で安心して頂く様に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていないが、本人にとって何が最良の方法かという事をご家族・医師と充分に話し合い方針を決めている。	重度化に向けた方針は明文化されており、契約時に書面で渡している。職員間でも方針は共有化され、支援している。状況が変化した時は利用者・家族の意向等を十分考慮して、かかりつけ医、職員を交えて話し合っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、緊急時に備えている。又、正職員は「応急手当普及員」の資格を持っており、ユニット会議等で常に勉強会を開いている。資格を持っていない職員には、定期的に研修や講習会への参加を促している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や水害に対してのマニュアルがあり、定期的にユニット会議で話し合っている。避難訓練は年2回行っている。又、非常食を常備し、定期的に中身のチェックを行っている。	火災、地震、水害と災害別のマニュアルを作成し、定期的にユニット会議で話し合い、共有化・意識化に努めている。避難訓練は年2回、消防署の協力を得て実施している。非常用備品は各ユニットで準備をし、定期的にチェックを行っている。正職員は全員が消防署「応急手当普及員」の講習を修了している。	
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝理念を唱和している。又、秘密保持やプライバシーを傷つけないという事については、朝の申し送り時やユニット会議で話し合う様にしている。基本動作には特に気をつける様にしている。	利用者一人ひとりの尊重に関しては事業所の理念でも謳い、毎朝の理念唱和で確認し、共有化し意識化を図っている。プライバシーや個人情報等に関しても日々の介護支援の中で十分に気をつけて対応している。排泄の誘導・失敗への対応も他に気づかれないようにそれとなく声掛けを行う等配慮している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望が言える様な雰囲気を作り、言葉を喋れない人は表情や仕草を見てくみ取る様にしている。職員が何事も決定するのではなく、いかに思いを引き出すかを職員間で定期的に話し合っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務に追われ過剰介護になりがちであるが、待つ介護・待てる介護に取り組んでいる。又、利用者の生活ペースや気持ちを尊重し、その都度臨機応変に対応している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の好みを押し付けるのではなく、利用者の希望に沿って髪型や洋服を決めて頂いている。希望する利用者様には買い物に付き添う事もある。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に応じて、もやしの根取りや汁のつぎ分け、配膳などを手伝って頂いている。食後はテーブル拭きや食器洗いの手伝いをして頂いている。又、時には何が食べたいか等一緒に料理の本を見たりしてメニューを決めている。	職員は利用者と一緒に準備・片づけ等できる範囲で行い、一緒に食事をしている。利用者の嗜好に関しては要望・希望を取り入れ、時には料理本と一緒に見ながら献立を決めることもある。庭には花壇・菜園があり季節の野菜を植え、収穫した野菜が食卓を賑わすこともある。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェックを行い、把握に努めている。又、検食簿に記入しており、肩よりのない食事づくりに努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは習慣になっている方は自らい、出来ない人は声かけや職員介助にて出来る様に支援している。又、週1回訪問歯科の衛生師の口腔ケアを全員受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ポータブルトイレやリハビリパンツの使用については、出来るだけ使用を避ける様心がけている。どうしても必要と思われる時は、管理者職員と相談の上使用する場合もある。排泄記録のチェックにより定期的にトイレ誘導する事でトイレでの排泄を支援している。	トイレでの自立した排泄に向けて支援に努めている。安易にポータブルトイレ・リハビリパンツを使用しないように、利用者一人ひとりの排泄パターンや排泄のサインを見逃さず誘導や声かけを行っている。リハビリパンツやパッドを利用する時も、利用者個々の状態に応じて、家族からの意見も聴き、職員間で随時検討している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェックを行い、水分の補給を促したり、繊維の多い食事作りを心がけている。日光浴の為の散歩が出来るよう工夫して、環境作りをしている。同時にそれぞれに合った下剤の使用を医師や看護師と相談しながら行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	当ユニットでは介護度が重い方でも浴槽浴をして頂ける様勤務体制を整えている。週2回利用者に入浴して頂いているが、体調や気分等によっては違う日に変更したりしている。又、利用者様に安心感を持って頂く為にコミュニケーションが良く取れている職員に介助して頂いている。	入浴は利用日・時間の設定はしているが、利用者の希望・要望を取り入れ、汚染があった時など臨機応変に対応している。入浴を拒否される利用者には、タイミングを変えたり、声かけする職員を代える等、利用者が入浴を楽しめるように工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ユニットでは起床時間や就寝時間を決めていない。一人ひとり好きな時に休息して頂いている。又、昼夜逆転しがちな利用者様には昼間の活動を促し、それによって日光浴が出来る時間を作っている。それによって、臥床の時間を少なくして頂く様努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状ファイルを作成し、薬に関しての周知徹底に努めている。配役に関しては4回与薬までにチェック出来る様にしている。薬に対する状況はその都度医師に報告相談している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽療法や園芸療法を通し存在している記憶や出来る力を引き出す様にしている。ご家族や本人様よりこれまでの生活歴等を引き出す事により個人レクや集団レクに取り入れる様にしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最低でも月1回の行事を行い、出来るだけ全員で外出出来る様にしている。幼少期や入居前に生活していた所を外出時に通る様にしている。	天候、利用者の体調等を考慮して2、3日に1回は散歩を楽しんでいる。庭が広く、菜園の植えた野菜を見に誘ったり、2階のベランダも広く、外気浴を楽しむことができる。できるだけ希望に沿った外出支援に努めている。今年の夏は夜間外出「室見川灯明祭り」を楽しんだ。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり、家族に定期的に目を通して頂いている。支払い領収書はご家族に送付している。能力に応じて持ち金を持たれる方もおられ、自販機にて飲み物を買う事もできる。お祭りの時等はお小遣いより金額を決め、本人が直接買い物できる様にしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話が使用できる。希望や意欲のない利用者様に対しては、本人の気持ちの把握に努め、必要なら電話や手紙を促す事もある。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる様な室内装飾を行い、観葉植物・生花等を設置している。照明は既存の照明だけでなく、必要な所だけ明るく出来る様に増設している。又、共用部分のテレビは時間を決め、ボリュームを落とす様にしている。	各ユニット毎に特徴を活かした共用空間づくりがなされている。季節行事の飾りや利用者の作品・写真が飾られている。ソファの位置や和室の使い方もユニット毎の利用者の活動に合わせる等配慮している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分2か所にテーブルを配置し、ソファも自由に座れる様に追加している。利用者様の席決めする時は気持ちに配慮し、不安やストレスを解消できる様にしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具等の持ち込みをして頂き、配置については本人やご家族と相談を行い、常に安全で混乱しない様に工夫している。	タンス・布団・仏壇・写真・人形・ぬいぐるみ等と利用者一人ひとりの使い慣れた思い出の品が持ち込まれている。趣味の工作道具を運び込み楽しんでいる利用者もいる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーになっており、要所要所には手すりが設けられ、使いやすい様整理している。又、トイレは車椅子が使用できる様に広いスペースを取っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域・医療・福祉の連携をふまえ、「おあしすありた」の名の下に「穏やかな気分で安心して信頼される素晴らしい介護を目指す」というわかり易く親しみのある理念を掲げ共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園、小・中・高校など交流を密に取り、学習の場やボランティアを受け入れている。 救マークや子ども１１０番など指定し、地域の安全の役に立つよう取り組みを行っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域包括支援センターや地域・民生委員の方と地域のことについて話し合っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、情報交換した内容をユニット会議にて報告し、スタッフで再度意見交換を行いサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の利用者がおられる為月一回情報提供し、面会などして頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業方針に掲げ、全てにおいて身体拘束を禁止としている。 玄関は鈴など工夫をしスタッフがすぐに対応できるよう体制を整えている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の外部研修には必ず出席し、ユニット会議で報告を行っている。スタッフ同士声を掛け合い防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護などの外部研修に必ず出席している。成年後見制度など運営推進会議やユニット会議などにて話し合いを行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間をかけ、契約書に添ってわかり易く話している。家族と個々に利用者に応じた話し合いの場を面会時など随時行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族よりの意見・要望を運営推進会議で検討し、話し合いをもとに運営に反映している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の日勤の合間やユニット会議にてスタッフの意見を十分に聴き、管理者だけでなくスタッフと共に決定を行っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの要望や希望を取り入れたり、希望する研修など勤務の調整を行っている。年毎のベースアップやパートの時給アップも行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたり性別・年齢を理由に排除せず、高齢者に対しての介護観・人柄・やる気を重視している。 経験年数や能力を向上させるために資格取得など人材育成に努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権を尊重する為人権に関する内・外研修に参加している。 テキストなど随時確認するようにしている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を全スタッフへ周知し、学ぶ機会の確保に努めている。 資格取得などを勧め、人材育成の取り組みを行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に同業者に出席して頂き、意見交換を行っている。 また、夏祭りなどで交流する機会を取り入れている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安時は何度も訪問し、事業所の見学や、居室が空室の際は短期入居や体験入居を利用しており、その際でも声掛けを多くし、信頼関係を築くよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に不安がないよう必ず本人に会って話し、安心してもらっている。 必要であれば何度でも会いに行き、又実際に見学してもらい話を聞く機会を設けている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時に話を聞き、内容に応じてケアマネに意見を求めたり、市発行の高齢者のあらしを参考にし対応を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や掃除など日常生活を過ごす場面で知恵や技を教えて頂いている。 スタッフは毎回ねぎらいや感謝の言葉を書け共に支えあう関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が滞っている家族には定期的に電話をしたり、メールが出来る家族にはメール交換などで関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族同意の上で知り合いや友人と関係を続けられるように面会に来て頂いている。 ユニットの行事などで昔行っていた神社にお参りなども行っている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士居室の行き来をされたり、ソファにて一緒に話をする機会を毎日取り入れている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時でもフォローする為に入院先や施設に定期的に面会に行き、再度情報の提供をしている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者がしたいこと等を常に声掛け、引き出すようにしている。 思いを伝えることが出来ない利用者には、日々スタッフ同士で話し合いを繰り返し、本人本位に立とうと努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたって、家族よりこれまでの仕事や嗜好など詳細に情報を提供して頂いている。 また、日々の話の中で今までの暮らしなどを聞き取り把握している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを徹底し、特変があった事柄でなく、詳細を伝え心身の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際、ユニット会議にて利用者から得た情報や家族の希望を反映し作成している。 入院後やＡＤＬ変化時、定期的に見直しを行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に一人ひとりの日々の様子やケアプランに沿った内容を細かく記載し、情報を共有している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々得られた利用者とのコミュニケーションや家族よりの情報や状況に対し、スタッフと随時話し合い、サービスに反映している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	教育機関と協働し、来て触れ合って楽しんで頂けるだけでなく、福祉教育の場として役立てて頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院の希望がない場合医療協力機関や往診できるクリニックを紹介している。家族が不満時は変更の話し合いを行っている。また、かかりつけ医と納得するまで話し合いを行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師に日々気付いた事柄や状態をファイルに記入し、または、口頭にて随時相談している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院の際面会時など時間をとって頂き家族を交え、担当看護師や医師に状態を逐一報告して頂いている。必要時には相談員とも話し合っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化についての書面を入居時に家族へ渡している。かかりつけ医と連携し、様態により随時話し合いを行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の応急手当普及員の資格を正社員全員取得しており、救マークの申請を行うと共に非常勤者にも避難訓練時応急手当を教えている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を消防署と連携して行っている。 非常物品も揃っており、緊急時に備えている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護などの内部研修を行っており、スタッフ同士声掛け注意しながら対応など配慮している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特に食事に関して何が食べたいのかを訊ね、決定して頂いている。 レクリエーションに関しても何がしたいのかをまず利用者に確認を取って行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりその日の体調や気分により入浴・レクリエーション等希望に添って支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スカートが好きな人、ジーンズが好きな人など好みに合わせている。 好きな服が体型に合わなくなったりした場合もゴムなど調整をし、お気に入りの服が着れるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいのかをまず訊ね、答えと2～3日前の献立を確認し作っている。 利用者が見える位置で料理を作り、簡単な作業を手伝って頂いている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望を検食簿と照らし合わせ、2～3日前とかぶらないよう、また、1日30品目を目標に食事を作っている。 一人ひとり水分チェック表にて把握し、体重も個人により定期的に測定している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者により毎食～朝夕と一人ひとりによって口腔ケアの時間を分けている。 週一回歯科の往診にてチェックをして頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立てる方は必ず共同トイレへ誘導している。 排泄チェックリストにて個人のパターンをスタッフが把握し誘導することにより失禁を減らしている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握し、腹部マッサージ・根菜など食物繊維の多い食品・ヨーグルトなどを工夫し予防している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	入浴の声掛けをし、本人の希望により合わせ時間をずらしたり、次の日に入浴の声掛けをしたりしている。 一人ひとり個別にゆっくり入浴して頂いている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体感温度に合わせて室温を調整したり、眠れない方は一対一で傾聴し、安心できるように声掛けを行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ノートにて個別に記入し、スタッフがいつでも確認できるようにしている。 バイタル表など受診・往診の際は資料として毎回提供している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフは利用者一人ひとりの情報を把握し、その人に合った役割を支援している。また、お茶の時間には個人の好きな飲み物など楽しんで頂いている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調・希望・天候に配慮して月一回外出を行っている。 家族の方に散歩にも連れて行って頂いている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、手元にお金を持って頂いている方もいる。 外出時に本人に支払って頂いたりしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話したいとの希望があれば、いつでも出来る様に支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節・天候・時間等により外の光を出来るだけ取り入れるよう光・温度等細かく調整を行っている。 利用者にはその都度声を掛け、居心地良くなるよう配慮している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室の為一人になりたい方は居室で過ごされたり、ソファなどで楽しく話せるように工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使っていた家具や布団を持って来て頂いている。 仏壇などを持って来られたりと自宅と感じて頂けるよう配慮している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入浴の椅子などは種類を多くし、本人の身体機能に合わせて使っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域交流等を組み込んだ理念を作り、毎朝唱和し、スタッフ全員に意識付けると共に実践に繋げる取り組みを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回の保育園との交流や、近隣の教育機関の研修、ボランティアを積極的に受け入れている。又、年1回開催するバザーには毎年地域の方々にお越し頂き交流を図っている。子供110番、応急手当普及員の常駐等地域に役立てる様な取り組みを行っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、家族や地域の民生委員の方に認知症について話をしたり、応急手当普及員の常駐を通じて理解を広める取り組みを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括、民生委員、家族、（時折、他施設のスタッフ）に参加して頂き、利用者の状況や施設の行事、スタッフについて等の報告を行い、そこで出た意見をスタッフと共有し取り入れ、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや市保護課と連携している。市主催の研修への参加を積極的に行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加し、それを全職員に周知する。また、身体拘束排除についてのマニュアルをいつでも見れる所に置いている。ユニットでは、入り口に鈴を付ける等の工夫をし、施錠をしない、見守りを徹底し、身体拘束の無いケアに取り組んでいる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に参加し、それを全職員に周知している。また、ユニット会議でケアについて職員で話し合い、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、学ぶ機会を設けている。また、必要な際には関係者と話し合い支援している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、重要事項説明書の内容、グループホームについての説明を出来るだけ詳しく行い、質問等にじっくりと答える時間を設けている。料金改定など変更のあった際には、面会時、電話、文書などで理解を得る。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に、家族と情報交換、コミュニケーションを密に取り関係作りを行うことで、意見を言いやすい雰囲気づくりをしている。また、出た意見はすぐに職員間で共有し対応している。介護保険サービス苦情相談窓口のポスターを掲示し、意見を表せるように配慮している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者だけで決めるのではなく、ユニット会議等で職員の意見を聞き出し、運営に反映させるようにしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務状態、努力を評価し時給のアップや役付を行うことにより、向上心、やりがいを持って働けるように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集・採用にあたっては、性別や年齢等は判断材料とせず、本人のやる気や能力や人柄で判断する様にしている。働く職員もやりたい仕事や研修は可能な限り行かせ、能力を発揮出来る様に配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は人権についての研修や講習会に参加し、それを職員に伝える。又、常々ユニット会議等で利用者に対する人権の尊重について話をするようにしている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市、県の研修の情報を掲示し、希望者には受講させている。また、一人ひとりの力量に応じて、必要と思われる研修には積極的に参加させている。その際は勤務扱いにする事で働きながら学びやすい環境を作っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に積極的に参加することにより、そこで知り合った同業者と情報交換を行うようにしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、家族や関係者等に話を聞き情報収集に努め、出来る限り本人との面談を行う。初期には、こまめにコミュニケーションを取ることで信頼関係を築き安心した生活が送れるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前（見学時など）や、契約時に家族の意向を聞きサービスを開始する上での要望や不安な点等を聞きサービスを行っている。面会時などには状況報告等を行い、コミュニケーションを図る事で良い関係作りが出来る様に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から集めた情報を元に、その時必要なサービスを見極め、支援出来る様努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の立場に立って寄り添う介護を行うように心がけ、信頼し合える関係作りに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等で、本人と家族が触れ合えるきっかけ作りを積極的に行い、面会時の情報交換やこまめな状況報告等で共に本人を支えて行けるような関係作りに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族から情報を貰ったり、知人の面会時にはゆっくり話が出来る様配慮している。行きたい場所があれば家族の協力を得、可能な限り叶えられるよう支援に努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を把握し、トラブルにならないよう配慮しながら、なじみの関係作りが出来る様きっかけ作りを行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、バザー等の行事へのお誘いや面会などを行うことで関係を保って行ける様に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のコミュニケーションの中で希望や意向を聞き出せるように努めている。また、聞き出せた希望を可能な限り叶えられるよう努めている。困難な場合には本人の立場に立って、本人本位で検討する。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族やケアマネージャーから、生活歴、経過などの情報を収集し把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に状態観察を行い、一日の様子や心身状態やＡＤＬの現状の把握に努め、ケアに活かしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とは日頃のコミュニケーションから意見を聞き出し、ケアに活かしている。家族とは面会時等に出来るだけ話をし、意見を聞いている。又、主治医やスタッフと話をし、意見を取り入れた介護計画を立てるようにしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化があった際には経過記録に詳しく記録し、意見は申し送り帳に記入し、職員間で共有し検討している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃より本人と家族とのコミュニケーションを重視し、その時々ニーズに合わせて柔軟な支援を行える様に心がけている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療機関の往診、訪問理美容、近隣の教育機関の訪問の受け入れなどを取り入れ安全で豊かな暮らしが出来る様に支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するなじみのかかりつけ医を受診出来る様に配慮している。かかりつけ医の受診、往診の際には情報交換を密に行っている。また、病状に合った医療機関の提案を行う事もある。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が勤務しており、その際には現状の報告を密に行っている。また、急変時等は24時間連絡が取れるようになっている。また、往診看護師にも対象利用者の報告を密に行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より病院関係者との連携を図り、入院した際にも安心して治療が受けられるように情報交換を行っている。入院した際にも病院関係者とこまめに連絡を取り合い、出来る限り早期に退院できるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	申し込み時や入居の際に看護師が常駐していないため、医療行為が出来ない、看取りケアは出来ない旨、事業所に出来る事を十分に説明し、納得したうえでの入居となっている。また、重度化した際には本人や家族や医師と連携を取り、方針を話し合う。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	正社員は応急手当普及員講習に全員行っている。（定期的に更新の為の講習有）パート職員も全員避難訓練の際やユニットでの勉強会にて応急手当講習を受けている。希望者は消防局の研修にも行かせている。緊急時マニュアル、利用者の状態をまとめたファイルを常備し急変時にはスムーズに対応出来るようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に日勤帯、夜勤帯を想定した避難訓練を行っている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格の尊重を重視し、常に自身の言葉かけについて振り返る機会を持っている。スタッフ間でもお互いに気付いた事は注意し合っている。また、ユニット会議等でも全員で話し合い、プライバシーを損ねない言葉かけを心がけている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も必ず職員で決めるのではなく、本人の希望を最優先させるようにしている。また、自己決定の出来ない方は、表情や日頃の行動から読み取り対応するようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ介護をするように心がけている。希望される事があれば、その日の勤務の職員で話し合い、出来る限り叶えられるように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服は出来るだけ本人に選んで頂いている。月1回の理美容では希望される髪型にするように配慮し、欲しい衣服等あれば、一緒に買い物へ行き好きな物を選んで購入出来る様支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせたお手伝いをして頂いている。また、何か食べたい物がないか聞きだし、メニューに取り入れている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事形態を考えて提供している。検食簿を記入し偏りのない食事を提供できる様に心掛けている。また、水分チェック表を記入し、一日の水分量が確保出来る様に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握し、ケアしている。また、週1回の訪問歯科にて、口腔ケア、口腔内のチェックをして頂き、口腔ケアについてのアドバイスをもらうこともある。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつやリハビリパンツなしで失敗を防げるか、個々の排せつパターンを知るため必要な方は排せつチェック表を付けている。それを元に、工夫して来る限り使用しないようにしている。使用していた方も、本人、家族、職員間で話し合い、極力自立に向けた支援が出来る様に努めている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排せつチェックにて排便の間隔を把握する。水分、食物繊維の多い食べ物を積極的に取り入れるなど工夫している。また、歩行可能な方は散歩等軽い運動も行うように働きかけている。どうしても出ない際には主治医に相談する。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	基本は週3回だが、希望される際にはすぐに対応出来る様にしている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	何事も無理強いせず、休息したい時には居室やリビングにてゆっくりしてもらっている。昼夜逆転を防ぐため散歩や、入浴、レクリエーションで活動する時間も設けている。就寝時間も特に決めておらず、一人ひとりの習慣に合わせ安眠出来る様に支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに薬情をまとめ、いつでも見れるようにしており、職員は必ず目を通し把握に努めている。服薬の際には必ず名前、服薬を確認し与薬した者がチェック表にサインをする。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や特技を活かし、楽しみや役割を持って生活して頂けるように支援している。また、嗜好品に関しても出来る限り続けて行けるように配慮している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時には出来る限り出かけている。普段行けない場所に関しては、家族と話し合い、出かけられるように支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力のある利用者は、お小遣いを持たせて買い物の際にはそこから自分で支払いをしている。手持ちが難しい方も、出来るだけ支払いの際にはお金を渡し自分で支払いが出来る様に支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望されれば、いつでも電話が出来る様になっている。荷物等を送りたい場合は郵便局にお連れする。また、暑中見舞いや年賀状のやり取りが出来る様に支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すような装飾をしたり、カーテンやクロスなども自然な色のものを使用するようにしている。また、危険因子は取り除き移動しやすく生活しやすい環境作りを心がけている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルが3台あり、レクリエーションしている方達も居れば、一人でテレビを見る方も居る。思い思いに過ごしやすい雰囲気作りや、逆に孤独にならないように気配りをするように心がけている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、危険物以外は以前使われていた馴染みの家具を置けるようになっている。本人が居心地の良い空間になるように話しながら、空間作りを行っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室や廊下には手すりがあり、バリアフリーになっていて安全に使用出来る様工夫してある。また、トイレや自分の居室もわかりやすくしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない